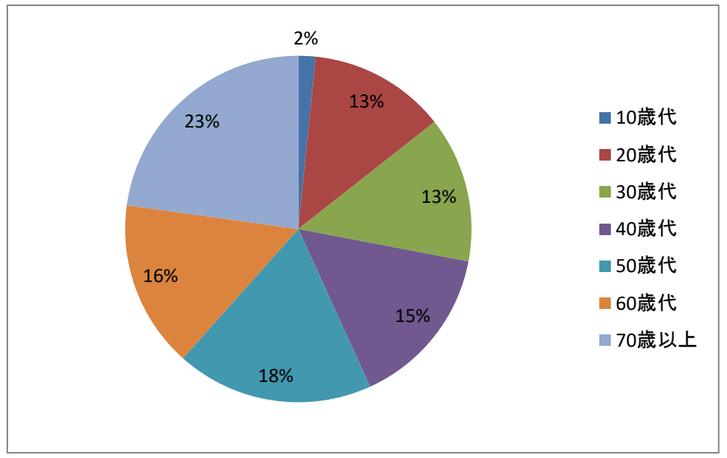
第7回 防災意識について

【アンケート実施期間】　令和8年8月28日～令和8年9月10日

【アンケートの目的】　市民の防災意識の高揚などを把握する資料とするため。

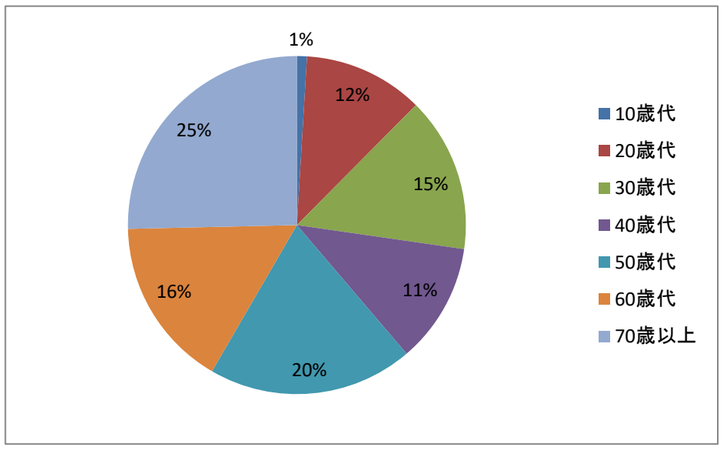
【対象者数】　250 名

内訳	人数	%
10歳代	4	1.6
20歳代	32	12.8
30歳代	34	13.6
40歳代	38	15.2
50歳代	46	18.4
60歳代	39	15.6
70歳以上	57	22.8
計	250	100.0



【回答者数】　209 名

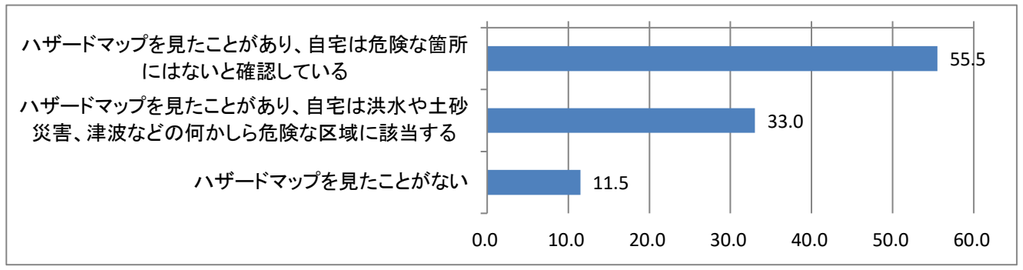
内訳	人数	%
10歳代	2	1.0
20歳代	24	11.5
30歳代	31	14.8
40歳代	24	11.5
50歳代	41	19.6
60歳代	34	16.3
70歳以上	53	25.4
計	209	100.0



【回答率】　83.6%

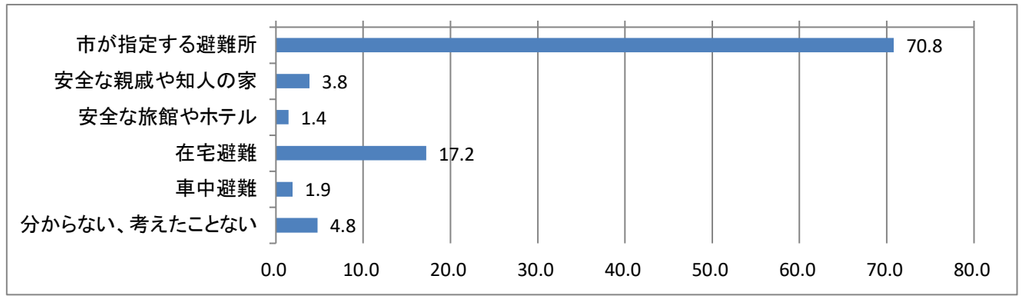
問1　金沢市のハザードマップを見たことがありますか。

回答	人数	%
ハザードマップを見たことがあり、自宅は危険な箇所にはないと確認している	116	55.5
ハザードマップを見たことがあり、自宅は洪水や土砂災害、津波などの何かしら危険な区域に該当する	69	33.0
ハザードマップを見たことがない	24	11.5
	209	



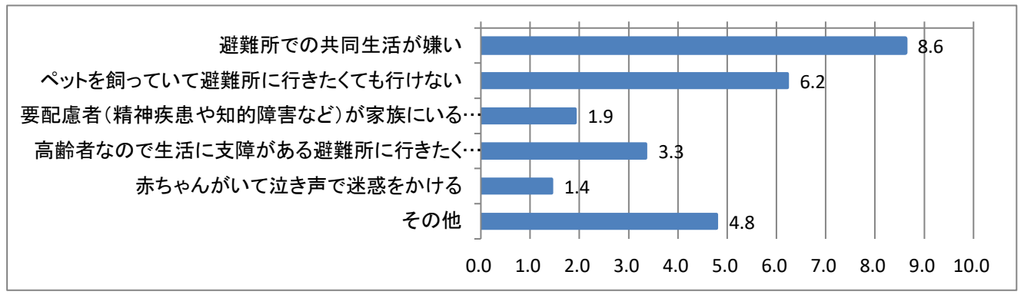
問2　あなたや家族の避難する場所はどこですか。

回答	人数	%
市が指定する避難所	148	70.8
安全な親戚や知人の家	8	3.8
安全な旅館やホテル	3	1.4
在宅避難	36	17.2
車中避難	4	1.9
分からない、考えたことない	10	4.8
	209	



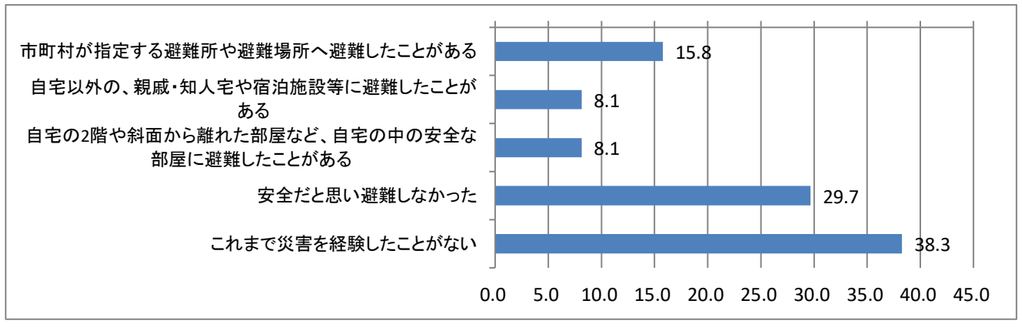
問2-1　問2で「在宅避難」「車中避難」と答えた方に質問です。理由は何ですか。

回答	人数	%
避難所での共同生活が嫌い	18	8.6
ペットを飼っていて避難所に行きたくても行けない	13	6.2
要配慮者（精神疾患や知的障害など）が家族にいるため	4	1.9
高齢者なので生活に支障がある避難所に行きたくない	7	3.3
赤ちゃんがいて泣き声で迷惑をかける	3	1.4
その他	10	4.8
	55	



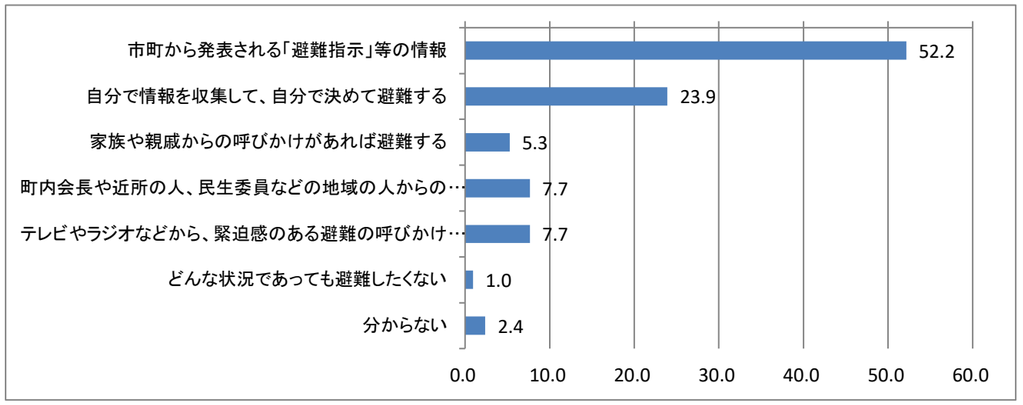
問3　大雨や地震などの災害が発生した際に、実際に避難したことがありますか

回答	人数	%
市町村が指定する避難所や避難場所へ避難したことがある	33	15.8
自宅以外の、親戚・知人宅や宿泊施設等に避難したことがある	17	8.1
自宅の2階や斜面から離れた部屋など、自宅の中の安全な部屋に避難したことがある	17	8.1
安全だと思い避難しなかった	62	29.7
これまで災害を経験したことがない	80	38.3
	209	



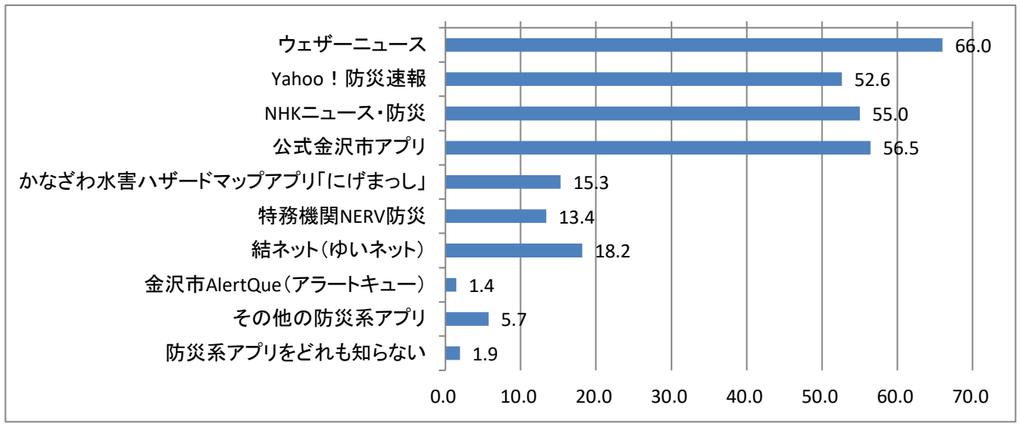
問4　あなたが避難行動を開始するきっかけはどれですか。

回答	人数	%
市町から発表される「避難指示」等の情報	109	52.2
自分で情報を収集して、自分で決めて避難する	50	23.9
家族や親戚からの呼びかけがあれば避難する	11	5.3
町内会長や近所の人、民生委員などの地域の人からの呼びかけがあれば避難する	16	7.7
テレビやラジオなどから、緊迫感のある避難の呼びかけがあれば避難する	16	7.7
どんな状況であっても避難したくない	2	1.0
分からない	5	2.4
	209	



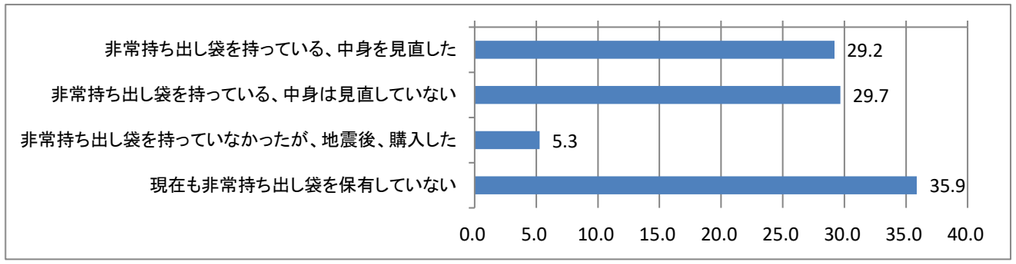
問5　あなたの知っている防災系アプリを教えてください。（当てはまるものすべて選択）

回答	人数	%
ウェザーニュース	138	66.0
Yahoo！防災速報	110	52.6
NHKニュース・防災	115	55.0
公式金沢市アプリ	118	56.5
かなざわ水害ハザードマップアプリ「にげまっし」	32	15.3
特務機関NERV防災	28	13.4
結ネット（ゆいネット）	38	18.2
金沢市AlertQue（アラートキュー）	3	1.4
その他の防災系アプリ	12	5.7
防災系アプリをどれも知らない	4	1.9



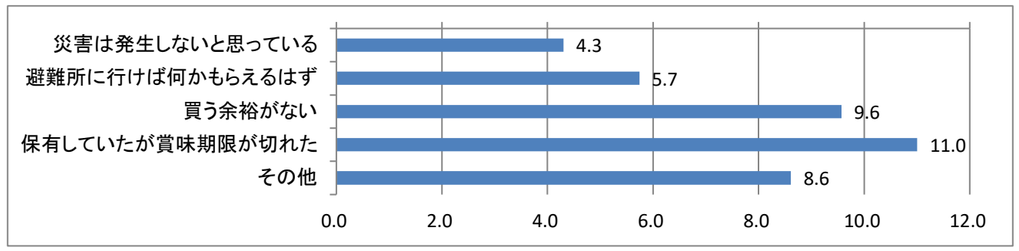
問6　あなたの家には非常持ち出し袋を持っていますか。能登半島地震を踏まえ、中身を見直しましたか。

回答	人数	%
非常持ち出し袋を持っている、中身を見直した	61	29.2
非常持ち出し袋を持っている、中身は見直していない	62	29.7
非常持ち出し袋を持っていなかったが、地震後、購入した	11	5.3
現在も非常持ち出し袋を保有していない	75	35.9



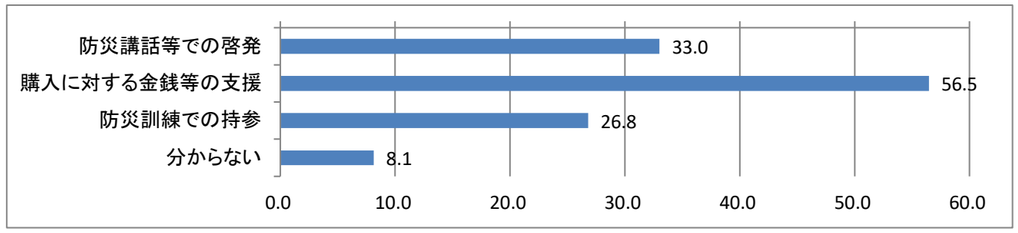
問6-1　問6で「現在も非常持ち出し袋を保有していない」と答えた方に質問です。保有していない理由を教えてください。

回答	人数	%
災害は発生しないと思っている	9	4.3
避難所に行けば何かもらえるはず	12	5.7
買う余裕がない	20	9.6
保有していたが賞味期限が切れた	23	11.0
その他	18	8.6



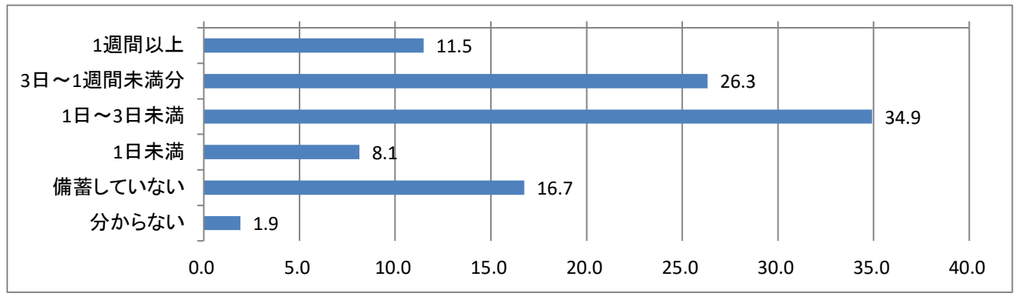
問6-2　非常持ち出し袋の保有率上昇させるためには、どのような方策が効果があると思いますか。

回答	人数	%
防災講話等での啓発	69	33.0
購入に対する金銭等の支援	118	56.5
防災訓練での持参	56	26.8
分からない	17	8.1



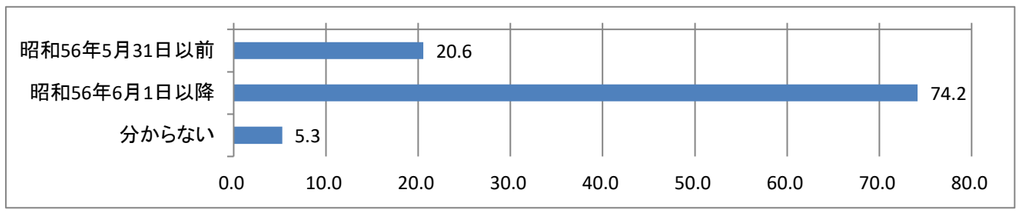
問7　非常用の食料や飲料水は何日分備蓄していますか。

回答	人数	%
1週間以上	24	11.5
3日～1週間未満分	55	26.3
1日～3日未満	73	34.9
1日未満	17	8.1
備蓄していない	35	16.7
分からない	4	1.9



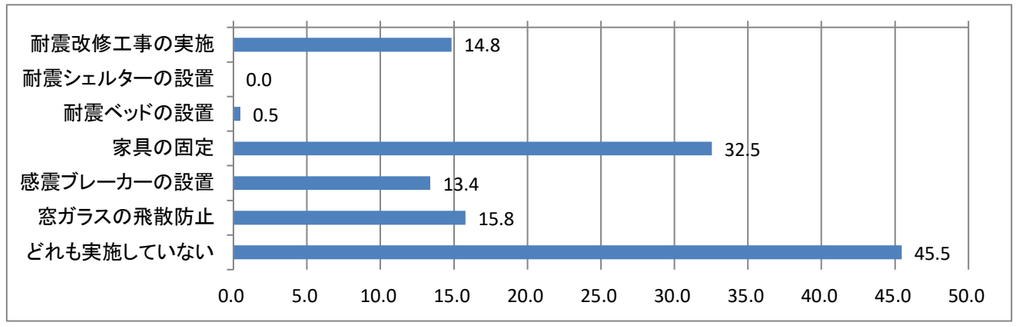
問8　あなたがお住いの住宅の建築時期はいつですか。

回答	人数	%
昭和56年5月31日以前	43	20.6
昭和56年6月1日以降	155	74.2
分からない	11	5.3



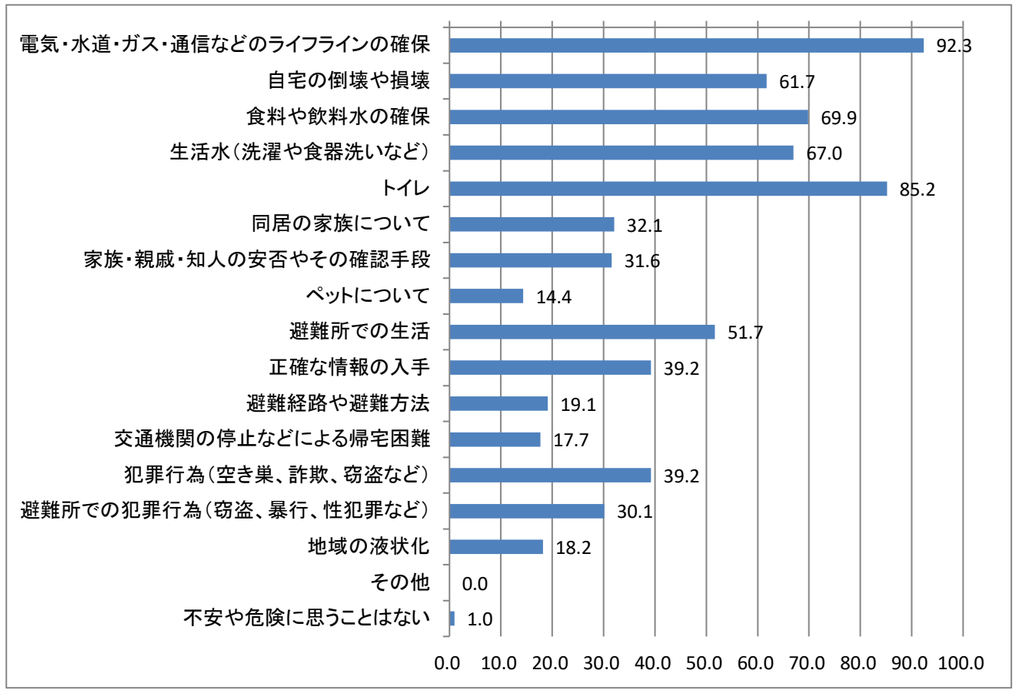
問9　あなたがお住いの住宅で実施している地震対策は何ですか。（当てはまるものをすべて選択）

回答	人数	%
耐震改修工事の実施	31	14.8
耐震シェルターの設置	0	0.0
耐震ベッドの設置	1	0.5
家具の固定	68	32.5
感震ブレーカーの設置	28	13.4
窓ガラスの飛散防止	33	15.8
どれも実施していない	95	45.5



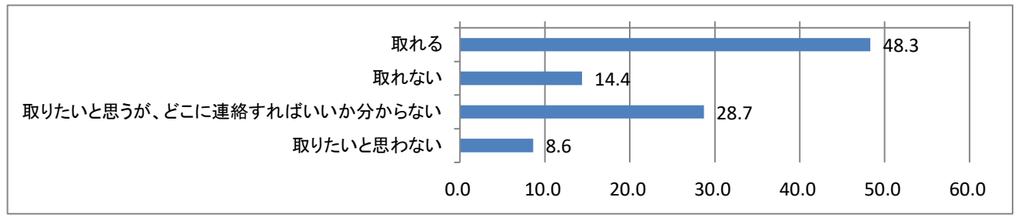
問10　大規模災害が発生した場合、不安や危険に思うことは何ですか。（当てはまるものをすべて選択）

回答	人数	%
電気・水道・ガス・通信などのライフラインの確保	193	92.3
自宅の倒壊や損壊	129	61.7
食料や飲料水の確保	146	69.9
生活水（洗濯や食器洗いなど）	140	67.0
トイレ	178	85.2
同居の家族について	67	32.1
家族・親戚・知人の安否やその確認手段	66	31.6
ペットについて	30	14.4
避難所での生活	108	51.7
正確な情報の入手	82	39.2
避難経路や避難方法	40	19.1
交通機関の停止などによる帰宅困難	37	17.7
犯罪行為（空き巣、詐欺、窃盗など）	82	39.2
避難所での犯罪行為（窃盗、暴行、性犯罪など）	63	30.1
地域の液状化	38	18.2
その他	0	0.0
不安や危険に思うことはない	2	1.0



問11　あなたのお住いの地域の民生委員、防災委員、町会長等どなたかと災害の際に連絡が取れますか。

回答	人数	%
取れる	101	48.3
取れない	30	14.4
取りたいと思うが、どこに連絡すればいいか分からない	60	28.7
取りたいと思わない	18	8.6



問12　防災に関するご意見、または、防災出前講座で市民に啓発すべきことがあればご提案ください。

【防災啓発について】
・防災に関する講座を定期的に実施することが大事。市民講座だけでなく、小中学校高校などの、教育機関で継続的に実施することが大事だと思う。
・能登や熊本での体験談から被災直後からの生活について、苦労された事ややって良かった事、苦難を乗り切るための工夫などを伺いたいです。
・高齢化が進む町内会が多いため、災害時の「共助（隣近所の助け合い）」の具体的な進め方を地域向けに分かりやすく解説してほしいです。
出前講座の中で、避難行動要支援者に対する「個別避難計画」の具体的な作り方や、高齢者の多い地域でも負担が少なく持続可能な形での安否確認訓練の手法などを紹介し、町内会単位での防災計画づくりを後押しする支援を期待します。
・地域の震災、災害について、歴史的事実を学び、いつでも起こ理売るものだと理解の上で、さまざまな防災上の問題課題を理解し、最後に、自らの対策への振り返りをし速やかにすべきことを自らまとめる。

・何を用意していたら良いか、分かりやすく知りたい

・一般的な防災グッズの他、その家庭に合わせた防災グッズの提案(小さい子やペット、お年寄りがいる等)。また、自宅近くの避難所は把握しているが、外出時に被災した場合の避難所なども知っておきたい。

・地域の実情に合った出前講座の開催を、積極的に市から町会等に働きかけて頂くとありがたいです。

自分はいずれも過去ですが、よく山に登り、キャンプやBBQもし、サバイバル体験もあり格闘技、護身術もそれなりの実力があります。ラグビー部でもありました。これらの能力は防災に直結。普段からキャンプやBBQをしたりすれば防災に寄与します。そうした趣味を広める活動は効果的だと思います。今は経済的にテントを買ったり備蓄品を買う余裕もないですが、経済的に悩んでいる人間は耐震工事をするのも備蓄用品を買うのも難しいです。経済支援としてそうした物資を支援があれば嬉しいですね。自分の防災備蓄は少しだけありますが、それなりの知識のある自分のセレクトでなく、赤十字などの行う懸賞企画で当てたものです。金沢市や石川県が全員に支援するのは無理があると思いますので金沢市でも懸賞企画等で防災バッグプレゼント等すれば当選者は助かりますし、そのイベントが防災意識のいい宣伝効果も生むと思います。

・日頃からの啓発活動
・防災出前講座を増やしてください。
・普段からできる備蓄や防災グッズの準備など、比較的簡単にできることは、各家庭で日頃から取り組むことが大切だと思います。防災出前講座では、実際の災害時にどのように行動すればよいか、地域での助け合いや避難所での対応など、個人では学びにくい内容を中心に啓発していただけるとよいと思います。
・災害が起こった際には、避難所に逃げるに限らず、自分の身を守る行動をとることを啓発することが大事だと思います。障がいがある方が避難できるような体制を整えてほしいです。
・自宅の前の用水が大雨で溢れ、膝下ぐらいの浸水をしたことがある。個人的には地震より怖かった。水の怖さを伝えるべきと思う。

・マンション等、集合住宅で各自で対応が難しい地震対策の場合、出前講座等で具体的手立てを示すと、効果が出ると思います。
・能登半島地震時、小学校に避難した際に毛布や機材など重い物の移動や要配慮者に対する対応に慣れておらず戸惑いを感じた。私が知らないだけかもしれませんが、実際あった被災時の対応、実践例をまとめたものがあれば助かります。全国的なものというより、特に雪や雨が多いなど地域にあったものが良いのかなと思います。

・内水氾濫がクローズアップされており、河川氾濫と明確に区別するべきである。

・避難施設へのエアコンの設置が必要と考えます。能登地震も熊本地震も、エアコンがないと生死に関わる気温だと思うので、優先的に設置していただけたらと思います。また、停電や断水があった時にどう行動すれば良いのか分からないので、どこかで教えて貰えたらありがたいと思います。
・災害の少ないというか災害がない地域という随分古い意識が能登の地震で改める必要があるが、防災という事に対する備えや知識は十分ではないが、紙ベースの防災以前の災害の種類やその対策などをまとめた冊子があればよいのではないかと思います。世の中web対応が主流だがまずは入門編という段階から進めてはどうかと思います。
・金沢市が防災手帳等を作成し、各市民宅へ配布する。その中で、上記の質問等を取りまとめた記載ページを掲載する。
各市民は、その手帳に記載されたページにより情報を整理する。
その中では、事前準備する項目のチェックシートが有り、必要に応じて準備する。
この一連の作業により、避難情報、避難時の持ち物、避難ルート、避難場所を理解し、万一の時に備える。
・防災はどんどん進化しているのでその時々で新しい情報を発信してほしい。水害の地図の色をもっとハッキリした色で示してほしい。どの川が氾濫したのか、どこで土砂崩れが起きているかスマホで簡単に見れるようにしてほしい。
・防災意識のある人は訓練に参加するけど、低い人は参加しなかったり、身体のどこかに痛みのある人は参加したくてもできなかったりするので、出前講座での啓発が難しいと思います
・大規模地震以外は避難場所は各校下の指定場所だか、避難指示が出てもなかなか避難場所へ移動する人が少ないと思うので、もっと気軽に避難するように啓発したらよいと思う。

・市が市民に対して防災啓発を行う際、その実効性を高めるためには、単に関連パンフレットを配布するだけでなく、参加型の「防災訓練」(町会単位)を実施する中で、当地の「ハザードマップ」などの見方や真に理解促進のための「出前講座」など、自分事として捉えることを主眼とした当局の関連施策連動型の展開が重要であると考えます。
・防災に対する準備状況の定期的な確認とアドバイスの実施
・準備が大切というのは良く聞くと思いますが、準備した結果どうなったのかの具体例の紹介。
上手くいったケース、そうでもなかったケース、千差万別な内容を伝えてリアルに実感させて欲しい。
・断層がどこにどのようにあって、その断層に関係する地震が発生した際に、地域のどの範囲にどんな規模の被害が想定されるのか、全国の事例を踏まえた専門家からの話を聴きたい。
・問6-1の「避難所には、保存食や保存水の備蓄は少ない、もしくは備蓄はありませんので、ご家庭での備蓄をお願いいたします。」を周知すべき

【非常持ち出し袋について】

・うちで用意している防災袋は以前金沢駅地下で行われていたイベントに参加していただいたものです。イベント自体でも防災知識が高まり大変有意義だったので、そのようなイベントを人の多く集まる場所で実施していただたらと良いのではと思います。

・アンケートを行う前は避難所に行けば保存食や取り急ぎの生活用品をすぐに受け取れると思っていたので、防災袋を見直そうと思います。そのあたりの周知や何が必要か、等をもう少し周知する必要性があると感じます。

・非常時持ち出しは考えていますが、高齢の為持ち出しが可能か疑問がある。また避難所よりも近くの大きなビルへの移動の方が安全である。移動した時の市への連絡をしっかり行いたい

・避難所生活に馴染む自信がないし、周りの人の迷惑にはなりたくない。よく避難所で配布されるものが自宅避難のうちにまで届かないと嘆く方をみかけるが、それを選んだのは自分自身なのに、配慮してほしいというのはわがままではないかと感じることがある。そういう反面、自宅避難生活が保てるほどの備蓄があるかもわからないので、自分自身平和ボケしているなと思います。具体的に何がどれくらいあったらよいかなど出前講座でも教えていただけるのでしょうか？

・防災訓練に参加した人に非常持ち出し袋および基本的な防災グッズを無償配布すること

・マンションはどんな方が住んでいるかわかりません。民生委員は一度交代した時だけでよくしりません。夫婦で考えて備蓄や避難を考えていく機会になるといいと思います。食料やいろんなグッズも紹介して欲しいと思います。実際に使ってみないといざとなったら困るので

・実際に持ち出し作りを持って集まってもらうとか実際に備蓄に必要なものを視覚的に見せる、その場で購入できるなら尚嬉しい。

・持ち出し袋を作ってはあるが重すぎて避難の妨げになるのではないかと不安に思う
避難所の環境が何年もも変わらず劣悪と聞いている改善を希望する

・防災袋を家族分、市か県で配布して欲しい。

・家庭での備蓄や持ち出し袋、感震ブレーカーなど準備に費用がかなりかかるものについて、具体的にどのようなものを選べば良いかについての個別アドバイスや費用補助があると防災への備えが広まると考える

・非常持ち出しに入れるべきものの情報が氾濫しているので、ベストを教えて欲しい

・私の住んでいるところは、森本富樫断層の真上です。水など入れた重い「非常持ち出し袋」を持ちだす余裕はないと思います。ましてや老人障碍者世帯です。無理です。ハザードマップに地震はありました？

【防災無線・情報発信について】

・日頃からのハザードマップの確認や備蓄の重要性についての情報発信を今後ともよろしくお願いいたします。
・役所などからたまに放送が聞こえるが、建物によっては窓を開けても何かを言っているのはわかるが内容までは分からず、本当に危険な時にわからない。
・災害が発生したアナウンスをもっと頻繁に流してもいいと思います
・大雨の時、学校屋上防災スピーカーが聞こえない、気密の家も多いので別の方法の検討を、
・批判されるかもしれないけど、何かあっては困るから危険かもしれないなら避難指示とか出して欲しいです。何かあってからじゃ取り返しつかないので
・テレビやラジオ以外のスマホで入手できる情報ルートを設けて欲しい。（LINEの金沢市アカウントなど）
・いざという時の連絡系統。ライフラインに問題があった時に、あちこちに電話すると回線が込み合ってしまうので、不要な電話等を控えるために必要な問い合わせ先をまとめた情報が欲しい。自分の場合はLINEで金沢市を登録しているので、そこから情報収集は可能と思いますが。

・災害が増加多発する昨今、行政の支援が必要です。防災ガイドの冊子も、毎年更新して配布して欲しいです。防災無線が大雨の時など聞こえません。設置数を増やして欲しいです。関係機関との連携強化をお願いします。特にメディア、テレビでは広報番組の他、各各社で工夫して、誉の防災旅や越村えりの防災生活、池津の防災めも、北國新聞の防災連載などアイデアはあるはずです。ご検討ください
別ですが、毎回アンケートに登場する質問回答キャラですが、入力に支障があります。改善してください

【防災訓練について】

・年に一回でも、町会　校下単位で、避難訓練を実施するよう促して欲しい
・防災訓練を町内で実施しています。8月30日にあります。今まで参加してませんでしたが、今回は参加して、いろいろおそわりたいです。
・地区内で開催される防災訓練等には必ず参加する事を周知する様徹底的に促す講座を定期的に開催する様にする。
・能登沖地震が金沢の方まで大きく影響したことで、防災に関心を寄せれるようになった。訓練もよくありますがもっと現実的にあった内容が求められると思う。
・防災訓練に出ています。
・この頃地震、線状降水と予測できない自然災害が頻繁に起こっている。決して他人事でないので、持ち出し袋の確認や避難場所のかくにんをしたい。防災持ち出し袋の必要なものの詳しい説明や補助があるとありがたい

【防災士について】

【その他】
・町会長などのラインやメールを町会に知らせる
・現在の自宅がアパートなので、備蓄を置くスペースがなく、避難した際も近所の人と交流がないので不安が大きい。
・トイレの確保が大切です。食料や水は手に入りますが、トイレだけは自分で確保しないと、捨てるところや水が不足します。ラップポン（商品名）の補助が欲しいです。10万円は必

・避難所で備蓄確保を望む。空調、トイレも進めて欲しい

・地域　隣近所での声の掛け合いが大切である事。

・災害時の避難箇所は地域の小学校になっているが、それが妥当かいかな地域ごとに検討すべきではと思う。（我が家かある場所は、津波が発生した場合、津波の方向に向かう事になるので、災害によって住民がどんな行動をすべきかまで、地域で検討の必要がある）
・高齢者だけで孤立する町会では、避難歩行の支援に限界あるのでは？
・自分も含めて、かなり防災意識は向上したと思う。備蓄を各人増やす必要を感じる。
・以前の日本と違い災害級の天候になりいつ何時災害に遭うかわからないのに何故かニュースを見ても他人事の様に感じてしまう
・生活支援者に対して防災セットの無料配布があれば良いとおもう
持ち出し袋の欄でわからないとしたのは、人それぞれ痛い目を見ないと、痛感して行動に移さず、選択項目には該当しないと思ったからです。実家の能登半島地震で随分と分からされ、それなりの意識は我が家ではしているつもりです。
あと、今回のアンケートの趣旨から少し外れるかもしれませんが、昨日の大雨でもアンダーパスはじめ、通行止め箇所の案内でも、市のHPには全然集約されておらず、とても分かりにくく残念だなと率直に思いました。　道路は管轄が違うのは重々承知ですが、みな有事の時には真っ先にアクセスするのではないでしょうか。　各項目ごとに日本で一番わかりやすく、情報の手厚いＨＰを願います。
・民生委員、防災委員の確認の仕方を知りたいと思った。
・外国人を取り残さないような工夫があって欲しいです。
・常に災害を他人事と思わず準備を怠らない事。
・妻の実家が輪島で、帰省の時な能登震災が発生し、輪島の山の中で被災し、一晩車内で過ごしました。
・隣近所との連携
・家族全員の3日分の水と食料保管するのは大変。行政でなんとかならないか。
賞味期限が切れそうになれば、学校給食で出すとか、安値で販売して。
・停電用にポータブル電源とか買おうと思うので、補助などあればうれしいです。
・住宅の建築時期ですが、昭和56年6月1日以降と以前に分けられていますが平成12年6月以降、新新耐震基準があります。我が家は昭和59年築の為、新耐震基準、この中間に建てた家屋に公的な耐震診断とかその後の補助的な支援を考えて頂きたい。
・正しい情報を知る方法を教えてほしいです
・能登地震の時、近くの指定避難場所にすぐに行ったが、鍵がかかっていて入れなかった
揺れに反応して開くキーボックスのあるところもあるようだが、まだ全ての避難所にないと思うので、きちんと設置して欲しい
・水の大切さ。耐震管への予算の為に、水道料金を上げる等の市民への説明
・個別避難計画を作りたいが相談先がわからない
・被災者がいち早く被災エリアから離れた近隣エリアで生活できる場所を確保することが必要だと思います。
その場にとどまっていたら復旧が進まない。被災家屋等の持ち主と連絡が取れなくても一部取り壊しなど行えるような法整備。
・避難所への、段ボールベッドや食料、飲料水の提供体制と、避難所の空調を今から整備しておくべき
・大型犬を飼っているので、避難所への避難はできないと思う。
また、車はないので車中避難も出来なく、犀川の横ではあるが、家内のより安全な場所にいるしかないと思っている。
・飲み水とトイレの確保は必須
・避難場所の周知と空調設備、水道トイレの充実
・金沢ではご近所付き合いも希薄でお隣さんともほとんど顔を合わせることがなく挨拶程度、もう少し地域住民同士が顔を合わせるようなイベントなどを増やして日頃から会話する機会が多くなるようにしてほしい。